

典礼のしおり

0 Domingo

N° 15

PANIB 発行

02 - 04 - 2023

受難の主日 (枝の主日)

木の枝を手に持って、エルサレムに入場し、十字架に向かうイエスの後に従って歩みましょう。荘厳な典礼は私たちの信仰の最大な出来事である、イエスの受難、死、そして、その復活を記念する聖週間に私たちを導きます。卑しい僕として私たちの元に来られた方を出迎え祝福いたしましょう。

行列の前、「盛儀の入堂」の前の歌

ダビドの子イスラエルの王にホザンナ、

神から来られたかたに賛美。

天には神にホザンナ、

神から来られたかたに賛美。

枝を持った会衆を祝福する祈り

全能永遠の神よ、この枝を祝福してください。主・キリストに喜び従うわたしたちが、ともに永遠の都エ

ルサレムに入ることが出来ますように。アーメン。

入城の福音

イエスはろばに乗ってエルサレムに入るが、それは旧約の預言の成就であった。馬ではなく、ろばに乗ることによって、身を低くするイエスの謙虚さが示される。群衆はこのようなイエスを歓迎するが、この歓迎はすぐに変質する。

マタイによる福音 (マテオ 21・1・11)

「イエスの」一行がエルサレムに近づいて、オリブ山沿いのベトファゲに来たとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばが見つからないで、一緒に子ろばのいるのが見つかる。それをほいで、わたしのところに引いて来なさい。もし、だれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐ渡してくれる。」それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

「シオンの娘に告げよ。

『見よ、お前の王が

お前のところにおいてになる、

柔和な方で、ろばに乗り、

荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』

弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、ろばと子ろばを引いて来て、その上に服をかけると、

イエスはそれにお乗りになった。大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切つて道に敷いた。そして群衆は、イエスの前を行く者も後に従う者も叫んだ。

「ダビデの子にホサナ。

主の名によって来られる方に、

祝福があるように。

いと高きところにホサナ。」

イエスがエルサレムに入られると、都中の者が、「いったい、これはどういう人だ」と言つて騒いだ。そこで群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言つた。

行列、あるいは「盛儀の入堂」を行わなかった場合、入祭唱を歌い、通常のようにミサを始める。

入祭唱

過越祭の六日前、エルサレムに入られた主を、

子どもらは枝を振りかざし、

声高らかに迎えてうたう。

天には神にホザンナ。

門よ、とびらを開け、永遠の戸よ、上がれ。

栄光の王が入る。

栄光の王とはだれか、

勝利を得られる力ある神。

天には神にホザンナ、

神のいつくしみのうちに来られたかたに賛美。

集会祈願

全能永遠の神よ、あなたは人類にへりくだりを教えるために、救い主が人となり、十字架をになうようにお定めになりました。わたしたちが、主とともに苦しみを耐えることによって、復活の喜びをとにもすることができましますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

朗読の解説

イザヤは、朝ごとに繰り返される神の働きかけに逆らわず、退くことがなかったので、打とうとする者やひげを抜こうとする者が侮辱を加えるときも、それに逆らわず、甘んじて忍んだ。神が助けてくれると知っているから。

第一朗読（イザヤ 50・4・7）

イザヤの預言

主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え、
疲れた人を励ますように
言葉を呼び覚ましてくださる。

朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし
弟子として聞き従うようにしてくださる。
主なる神はわたしの耳を開かれた。
わたしは逆らわず、退かなかった。

打とうとする者には背中をまかせ
ひげを抜こうとする者には頬をまかせた。
顔を隠さずに、嘲りと唾を受けた。

主なる神が助けてくださるから
わたしはそれを嘲りとは思わない。

わたしは顔を硬い石のようにする。

わたしは知っている

わたしが辱められることはない、と。

答唱詩編 ○典 176〇1 〇2 〇3 〇4

（詩編 22・8+9、17+18、19+20、23+24）

先・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

わたしを見る者はみなあざ笑い、
わたしをののしって言う。

「彼は神を頼みとした。神が救いに来ればよい。」

神が彼を心にかけているのなら、救い出せばよい。」

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

大がわたしを取り囲み、悪を行う者の群れが迫り、

わたしの手足を引き裂いた。

わたしはさらしものにされ、彼らはわたしを見つめる。

全・わたしの神、わたしの神、
どうしてわたしを見捨てられるのか。

彼らはわたしの衣を分け合い、着物をおくじ引きにした。

神よ、わたしから遠く離れず、
急いで助けに来てください。

全・わたしの神、わたしの神、
どうしてわたしを見捨てられるのか。

わたしはあなたの名を兄弟に告げ、

その集いの中であなたをたたえる。

神をおそれる者は神をたたえ、

ヤコブの子孫はみな神をほめよ。

イスラエルの子孫はみな神をおそれよ。

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

第二朗読 (フィリピ 2・6-11)

使徒パウロのフィリピの教会への手紙

「イエス・」キリストは、神の身分でありながら、
神と等しい者であることに固執しようとは思わず、か

えって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ
者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、
死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でし
た。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名
にまさる名をお与えになりました。こうして、天上の
もの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名
にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主
である」と公に宣べて、父である神を称えるのです。

詠唱 「キリストは人間の姿で」

キリストは人間の姿で現れ、死に至るまで、しかも
十字架の死に至るまで、自分を低くして、従う者とな
った。それゆえ神はキリストを高く上げて、すべてに
まさる名をお与えになった。

受難の朗読

†印はキリスト(司式司祭)、Cは語り手(第一朗読
者)、Sは群衆(数人、または会衆一同)、Aは他の登
場人物(第二朗読者)

A 年

マタイによる主イエス・キリストの受難（27・11―54）

C 「そのとき、」イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに尋問した。

A 「お前がユダヤ人の王なのか。」

C イエスは言われた。

† 「それは、あなたが言っていることです。」

C 祭司長たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかった。するとピラトは言った。

A 「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか。」

C それでも、どんな訴えにもお答えにならなかった。総督は非常に不思議に思った。

ところで、祭りの度に、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することになっていた。そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。ピラトは、人々が集まって来たときに言った。

A 「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」

C 人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。一方、ピラトが裁判の

席に着いているときに、妻から伝言があった。

A 「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」

C しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらおうようにと群衆を説得した。そこで、総督が言った。

A 「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか。」

C 人々は言った。

S 「バラバを。」

C ピラトが言った。

A 「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか。」

C 皆は言った。

S 「十字架につける。」

C ピラトは言った。

A 「いったいどんな悪事を働いたというのか。」

C 群衆はますます激しく叫び続けた。

S 「十字架につける。」

C ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなのを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。

A 「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」

C 民はこぞって答えた。

S 「その血の責任は、我々と子孫にある。」

C そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打つてから、十字架につけるために引き渡した。

それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、侮辱して言った。

A 「ユダヤ人の王、万歳。」

C また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。

兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。

そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされ

なかつた。彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、そこに座って見張りをしていた。イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、言った。

A 「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」

C 同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。

A 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」

C 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。

† 「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」

C これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになつたのですか」という意味である。そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、

A 「この人はエリヤを呼んでいる」

C と言う者もいた。そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。ほかの人々は言った。

A 「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見てみよう。」

C しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。

(頭を下げて、しばらく沈黙のうちに祈る)

そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真つ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返つた。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、言った。

A 「本当に、この人は神の子だった。」

信仰宣言

共同祈願

司・エルサレム入城に際して民衆から王、メシアとして叫ばれたキリストを礼拝いたしましょう。

1、カルワリオへの道をたどられるイエス、あなたの教会を過ぎ越しの新しい命へ導いてください。

全・主よ、私たちの祈りを、お聞き入れください。

2、従順な僕イエス、貴方の愛と平和の国に忠実であるよう、あなたの弟子たちを強めてください。

全・主よ、私たちの祈りを、お聞き入れください。

3、いばらの冠をかぶせられたイエス、差別と非礼の痛みに心身に苦しんでいる人々を助けてください。

全・主よ、私たちの祈りを、お聞き入れください。

司・四旬節兄弟愛運動の祈りを交互に唱えましょう。

寛大な御父なる神よ、飢えている群衆を見て、貴方の御子は深く哀れみ、五つのパンと二匹の魚を祝福し、裂いて、私たちに教えてくださいました。「あなた方が彼らに食べる者を与えなさい。」

聖霊の働きに信頼して、お願いいたします。私たちに新しい世界の夢を与えてください。対話と正義、平等

と平和の世界実現の夢を与えてください。
飢え、貧困、暴力、戦争のない、もつと連帯的な社会
促進をするために私たちを助けてください。
生命に無関心である罪から、私たちを救ってください。
私たちの母であるマリアよ、私たちのために取り次いで
ください。私たちが一人一人のうちに、殊に見捨て
られ、忘れられ、飢えている人々の中にイエス・キリス
トを受け容れることが出来ますように。アーメン。

奉納祈願

いっくしみ深い神よ、御ひとり子の受難によってわた
したちをおゆるしくください。わたしたちの力では得る
ことのできないこの恵みを、十字架の、いけにえによ
って豊かにいただくことができますように。わたした
ちの主イエス・キリストによって。アーメン。

叙唱 主の受難 二二三 (35ページ以下)

拝領祈願

いのちの糧でわたしたちを強めてくださった神よ、あ
なたは、ひとり子の死によって、信じる者に希望を与

えてくださいました。御子の復活によってわたしたち
が、望みの地に達することが出来ますように。わたし
たちの主イエス・キリストによって。アーメン。